

ダムの風だより



国土交通省大町ダム

“ダムの風だより”は国土交通省大町ダム管理所が発行する広報誌です。

大町ダムのキャラクター「犀龍と小太郎」

「ダムの風だより」50号発行記念

「ダムの風だより」は、皆様のおかげをもちまして、平成 10 年 6 月の発行以来、今回で第 50 号の発行となりました。

日本一の長さを誇る信濃川の上流の高瀬川に大町ダムはあります。その大町ダムが完成してから今年で 26 年目となります。今回は大町ダムの歴史やその役割を簡単に紹介します。

～大町ダムの歴史～

大町ダムの歴史

- ・高瀬川下流の街や耕地では度々洪水による被害を受けていた。昭和 44 年 8 月の洪水では下流の家屋 234 軒が被害を受ける。これを契機にダム建設が具体化。
- ・昭和 49 年：県道付け替え工事着手
- ・昭和 52 年：ダム本体工事に着手
- ・昭和 59 年：試験湛水開始
- ・昭和 61 年：完成



高瀬川の氾濫を伝える新聞記事

河川はんらん続出
洪水死者、四県で九人に



建設中 (S56) の大町ダム (左写真)

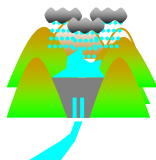


完成し (S61)、湛水前の大町ダム (右写真)

～大町ダムの役割～

1. 洪水調節

大雨の時に上流から流れてくる最大 1500m³/s のうち、1100m³/s をダムに貯めこみ、残りの 400m³/s を下流に流します。



2. 農業用水等の安定供給

渇水時には、高瀬川と犀川の合流する地点までの約 3000ha の地域に水を供給し、川らしい流れの維持に努めます。



3. 水道水の確保

渇水時に流域市町村や長野市の水道用水を補給できるように、水を確保し貯めています。



4. 発電

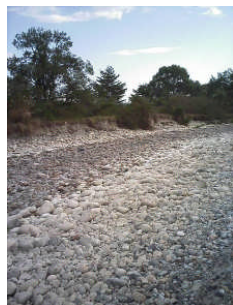
ダムから放流される水は大町発電所 (最大出力 13000kWh) を通って、電力に変換されます。



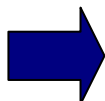
瀬切れを防いでいます

秋季から冬季にかけて、高瀬川では川の水の流れるべき場所に水が流れなくなる「瀬切れ」という現象が起きやすくなります。「瀬切れ」は、生態系に影響を与え、決して見逃せない問題です。

そこで、大町ダムでは「瀬切れ」が起きそうになると、追加放流して、川本来の姿を維持できるように努めています。



大町ダムから追加放流



川に水が流れず瀬切れが発生している

水が流れ瀬切れ解消

大町ダムのメンテナンス

大町ダムは常に機能を発揮できるよう、機械設備やダムの堤体について様々な点検・整備を行っています。

今回は、その様子の一部を紹介いたします。



機械設備の点検



観測装置の点検



警報装置の点検

ダムが無人になることはなく、カメラなどを使って 365 日 24 時間、監視員がダムに異常がないか監視をしています。

また、震度 4 以上の地震が起こった場合は臨時点検を行い、安全の確保に努めています。

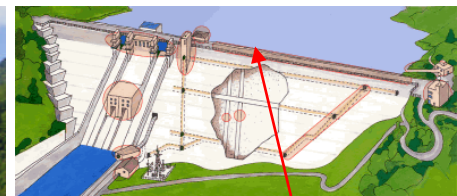
唐沢岳・野口五郎岳が見える大町ダムのスポット

天気の良い日、大町ダムからは唐沢岳、野口五郎岳などの北アルプスの山を眺めることができます。

大町ダムはこれから紅葉のシーズンを迎えます。清涼な空気と鮮やかにもえる山々の景色を楽しみにきませんか。



大町ダムから山々を望む



撮影位置

大町ダム建設時に移設した

「石仏」(エネルギー博物館)

大町ダムを建設する時、建設予定地の旧道にはいくつかの石仏がありました。現在、その石仏は「エネルギー博物館」の屋外に並んでいます。皆さんも、昔の情景に想いをはせながら、この地を見守り続けている石仏を一度訪れてみてはいかがでしょうか。



かつて葛温泉に向かう道中にあった石仏達。その姿を今に伝える(左写真)

大町エネルギー博物館の位置図(右図)。石仏は屋外にあり、無料で観ることができる



高瀬渓谷フェスティバル2011を開催しました！！

平成 23 年 7 月 30 日(土)に高瀬渓谷フェスティバルを開催いたしました。あいにくの雨でしたが、多くの皆様にお越しいただきました。ありがとうございました。



洪水防災一口メモ (2回目)

～放流警報が出たら川から上がろう～

皆さんは高瀬川の放流警報をご存じですか？

大町ダムでは、多くの水を放流するとき、サイレンや回転灯、情報表示板で、住民の皆さんへ川の水が増えることをお知らせしています。今回は、警報によるお知らせから放流をするまでの流れを紹介いたします。

1. 放流の実施を決定する

天候や上流の状況から、大町ダムからどのくらいの水を放流すべきか検討し、放流の実施を決定します。警報は、大町ダムからの放流量によって区間が異なります。

2. 放流通知

放流開始の1時間前に、関係機関(市役所や警察・消防署など)へ放流する旨の通知をして、協力を呼びかけます。

3. 河川の巡視

放流の30分前に、大町ダムの巡視員が、警報を発令する予定の地点まで河川の巡視を行います。河川敷に人がいないか、放流した場合に支障が生じることがないかを点検し、大町ダムへ報告をします。



河川の巡視

4. 回転灯の点灯・サイレンの吹鳴

放流の10分前に、警報の対象区間における警報局の回転灯と情報表示板の点灯、サイレンの吹鳴を開始します。

5. 放流の開始

安全が確認できたら、大町ダムからの放流を開始します。



放流開始

放流量を増やすと、増水で中州が浸水したり、水の流れが速くなったりします。放流警報が発令され、回転灯が点灯したり、サイレンが鳴ったら川から上がりましょう。天候や周囲の状況に注意し、川と上手に親しんでいきましょう。皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

洪水から地域の人々の生命や財産を守り、ふるさとの大切な水資源を活かすことが大町ダムの使命です。ダムに関するご意見やご要望もお待ちしています。

国土交通省 北陸地方整備局 大町ダム管理所

〒398-0001 長野県大町市平字ナロヲ大クボ 2112-71 TEL. 0261-22-4511(代) FAX. 0261-22-4512

<http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/>